

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300575		
法人名	有限会社 海成水産		
事業所名	グループホーム館		
所在地	大分県大分市大字入蔵1095の4番地		
自己評価作成日	平成28年3月13日	評価結果市町村受理日	平成28年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4472300575-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	平成28年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>山間の田畑に囲まれた静かな環境に位置し、古民家を改造した懐かしさを感じられる住居で、四季の移り変わりを感じ、のんびりと過ごして頂ける。心も体も健康に過ごすには「食」が大切という考えから、施設長の田んぼで作った米を使用し、施設周辺で採れた山菜を使い季節感のある食事を提供している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>山々に囲まれた自然あふれる環境の中、民家を改修し、少しでも家庭に近い雰囲気をかもし出しています。窓越しに眺める四季折々の花や木に穏やかな暮らしがあり、職員は、白の割烹着姿で対応する様子は「昭和」の雰囲気を思い出し、懐かしい空間となっています。1ユニット9名の小規模性を活かし、家庭的な雰囲気の中で安心して安全に暮らせる日常を提供しているのが特徴です。「食」にこだわり、施設の畑で無農薬野菜を作り、山菜等旬の野菜中心の昔ながらの食事を提供する支援方針は利用者の食欲増進に繋がっています。事業所は経年による高齢化、重度化(半数が要介護5)という現状に、利用者一人ひとりに寄り添い、日常生活の中で活性化を図り、その人らしさを視点にしたケアに取り組むとともに、研修等で職員の質の向上に努めています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や居間に理念を掲示している。また、毎朝の申し送り後に全員で理念を唱えて共有し、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念及びホーム独自の目的(気配り、目配り、心配り)を毎朝唱和することにより理念の共有を確認するとともに、日々のケアを通じて得られた気づきを実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者、職員のほとんどが地域住民の為に地域の行事に参加する等で交流している。また、介護等の相談があれば誠意をもって対応している。	自治会に加入し、管理者・職員は地元の方が多く、情報交換が密に行われ、地域の要望(相談等)に誠意を持って答えており、連携が図られています。利用者の重度化に伴い、地域の行事に参加できませんが、ボランティアの来訪等で交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会は少ないが運営推進会議の時に認知症の理解や支援方法の話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者やサービスの実際等について報告や話し合いを行い、行政、包括センター、地域の方々から質問や意見をいただきサービスの向上に活かしている。	委員は地域、行政のメンバーで構成され、2ヶ月に一度開催されています。管理者から活動報告、利用者の状況報告を行っています。その中で推進会議の目的が話され、委員としての役割と事業所への理解が促されています。	目標達成計画の中で、運営推進会議に多くの家族の参加を呼びかけています。今後も家族の参加推進の具体的な取り組みを継続されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいた時に事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている。また困った事があれば行政窓口に出かけたり、電話をして相談をしている。	運営に関しての必要事項や、情報はメールのやり取りで行われています。野津原支所の担当者と、頻りに交流し相談やアドバイスを頂いています。市主催の研修会や会議等に、積極的に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を毎年行い身体拘束の理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、やむを得ず身体拘束を行っている方には毎月身体拘束検討委員会を開いて検討をしている。	身体拘束、虐待防止について、内部、外部研修に参加し、職員の意識向上に努めています。利用者の人権を守ることがケアの基本であることを職員間で話し合い、特に不適切な言葉かけはないか、ミーティング等で確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年高齢者虐待の勉強会を行い虐待防止に努めている。また、施設内の虐待が見過ごされないように職員が互いに注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度について今年度は自立支援事業についての勉強会を開き理解を深めている。利用者から相談があれば対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際は、利用者の家族等が納得のいく説明を十分に行い理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時に意見や要望を聞いたり、年度末に入居者の家族にアンケート調査を行い意見・要望をいただいて運営に反映させている。また、玄関にご意見承り賜り箱を設置している。	面会や電話連絡時の話しや、年1度の家族アンケート調査の中から、意見・要望を聞きケアに反映させています。請求書と一緒に利用者の近況報告「やかただより」を送付し遠方の家族との情報交換の場としています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや勉強会等で意見や提案があれば話し合い業務改善やサービス向上に反映させている。	年1度の職員アンケートと個人面談の中で、職員の意見や提案を聞き、サービス向上に反映させています。職員の要望でトイレを改修し使いやすくなった事例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、実績を把握し各自が向上心を持って働けるように努めている。また、個々の希望を入れシフトの作成をする等働きやすい環境・条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	二カ月に一回法人内の研修を行い、法人外の研修は個々のレベルに応じ受けられるように機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会等に参加して交流する機会はあるが相互訪問等の交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人や家族と面談し、本人の現状や不安・要望を聞いて信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に家族と面談し、本人の現状や家族の不安・要望を聞いて信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に本人や家族と面談し本人の必要としている支援を見極め、他の施設サービスの利用を含め、本人の希望を重視した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度が重度化し意思疎通が出来なくなっているが、わずかな時間でも共に過ごし支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等が面会に来られた時には本人の暮らしぶりや希望を伝え、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	介護度が重度化し馴染みの場所には行けないが、馴染みの人の面会は快く受け入れている。また、軽度の利用者には馴染みの場所に出かけるように努めている。	体力低下により遠出が出来ない人が多くなり、日常の会話の中で、これまでの暮らしや馴染みの関係性について情報を話題にしています。家族の協力で自宅に立ち寄り、外出できる方には希望の場所にドライブに行く支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度が重度化し利用者同士の会話が成立しないので、職員が利用者の性格・相性を把握し、居間の席を決めたり、誘導したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の都合で他施設に転居された方がいるが、相談等あれば必要に応じ支援できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できる方は意思を尊重し、出来ない方は日々の様子や個人の性格を考慮し本人本位に検討している。	利用者の、高齢化や入所歴による思い・意向が変化しており、日常の会話を多くし、その中から本音を把握しています。朝の声かけ時に体調等を確認し、個々の思いを汲み取り、申し送りで職員間の情報の共有に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入時に生活歴、生活環境、サービスの利用等の情報を把握するようにしているが、不明な点は家族等の面会時に聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の一日の過ごし方、心身状態、体調の変化等ケース記録に記入している。また、申し送り時にも職員が現状把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族等の意向を聴き職員と担当者会議を行い現状に即した介護計画を作成している。モニタリングも職員と行っている。また、体調の変化等があればその都度見直しを行っている。	利用者の希望する生き方や生活歴等を把握、職員の気づきとともに、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っています。モニタリングで、現在の課題と次の計画に反映させる課題を見極めていきます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫をケース記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。また、職員間にも確実に伝わるように白板に書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体力低下、体調の変化等によりその時々の変化するニーズに対応して、現状に即した柔軟な対応が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	遠出が困難になったので地域の祭りに参加したり、地域のボランティアの協力を得て楽しく豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談しかかりつけ医を決めて、専門科以外の病気の時は専門医を紹介していただき受診できるように支援している。	利用者・家族、近隣の病院との話し合いを密に保ちながら、終末期の期間、見守りの体制を作っています。早目の受診を心がけています。	地元の、かかりつけ医との長年にわたる信頼関係が、利用者の安心感を保てる重要な要素となります。緊急時に外部の医療機関受診の必要が生じた時の介添えに、積極的に携わるよう期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職不在の為、日常の体調変化を見逃さず変化があれば主治医に連絡をし、適切な指示をいただいたり、時には往診をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際安心して治療できるように、又早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。日頃からそうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の過ごし方について家族と主治医が話し合いを行い、施設でできる事を十分説明し、納得していただき、終末期に向けた方針の共有と支援に主治医と共に取り組んでいる。	入所時事業所として、重度化した場合に利用者に対応出来る事と、出来ない事を家族に説明し理解して頂いています。「終の棲家」として終末期に家族に来て頂き、職員も頻繁に様子を見に行くようにしています。	新人職員の不安の声の払拭の為、終末期を迎えた利用者への、より良い対応が全職員で行えるよう重度化・終末期支援のための、マニュアルの作成を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年勉強会で急変時の対応や事故発生時の対応についての勉強会を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年二回避難訓練や消火訓練を実施している。また、連絡をすればすぐに地域住民の協力が得られる体制も整っている。	火災時は、近隣の住民との協力体制が整えられています。車椅子での移送、避難場所の確保等パニックにならないよう、職員がそれぞれの役割を明確にして、火災時に機能するよう、3月と10月の年2回訓練を実施しています。	火災だけでなく、最近では地震も頻発することから、落下物や転倒による事故が予想されます。避難の際の、身体のけが防止のため、施設内での対策を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になっても人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	不穏時に落ち着いて頂くために、時間をかけて何が原因だったのかを知るように努めています。威張っている・唾を吐きかけるなど、利用者の変化を報告し申し送り時に、全職員で情報を共有しています。	利用者は褒められると嬉しいので、「ありがとう」と感謝の言葉を伝える職員の優しい声かけがみられました。利用者のサインを、素早くキャッチされるよう努力を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表し自己決定できる方には、本人の意思を尊重し、出来ない方にはその時々様子、性格等を考慮し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や意思を尊重し希望に沿ってその人らしい暮らしができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれが出来る方には楽しんでいただけるように支援し、出来ない方には季節に合ったその人に似合う物を選んでいく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が重度化し職員と共に仕事をする事は出来なくなったが季節の山菜、野菜を使用し季節を感じられる食事を楽しんでいただけるように努めている。	ミキサー食や刻み食の利用者がいますが、利用者の希望に添い、形のある料理を出すようにしています。口から食べるのが困難になった利用者は、本人の好むものを提供しています。(アイスクリームや乳酸菌飲料)	利用者一人ひとりが、一つのテーブルで自分のペースを保ちながら、食事を楽しんでいます。利用者と職員と一緒にゆったりと季節の料理を味わっています。利用者を手伝って頂き、旬の素材を具材にした料理で、楽しい時間を共有することを希望します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定、定期受診等で各自の栄養状態を確認し対応している。また、嚥下状態に応じミキサー、トロミ、刻み、食べる量等各自個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口臭や舌苔が出来ないように、毎食後、一人で出来る方には見守り、出来ない方にはその方に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンにそって、昼夜を問わず声掛けや、トイレで排泄できる方はトイレ誘導してトイレでの排泄支援を行っている。	排尿・排便のキャッチを素早く出来るよう観察・見守りを利用者のパターンにそって行っています。	排泄パターンが一人ひとり違うため、トイレ誘導や声かけの方法もそれぞれに応じた、適切な対応が求められます。清潔が重要との方針のもと、トイレ誘導に努めて頂くことを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事を提供し、毎日牛乳を飲む等便秘の予防に取り組み、できるだけトイレでの排便に心がけている。便秘には個々の状態に応じて便秘薬を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を言われない方が多いので、週二回以上の入浴を本人の気分や体調を考慮し、個々に応じた入浴支援をしている。	無理強いしないよう、声かけに注意しながら、何回か入浴を促しています。利用者の決定を尊重して個々に応じた入浴支援をしています。	入浴拒否時には問題が起こることが多いとの事例もあり、無理のない誘導が求められます。利用者の思いがあるとの理解で、入浴すると楽しいと思えるような声かけが期待されます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良の訴えがないので顔色、バイタル等を見てその時々状態に応じ休んでいたっている。また、昼間日光浴をして夜間気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬を理解し副作用や用量による変化に気配りしている。症状の変化があれば主治医に報告し薬の調整をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや好みを把握し楽しく日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方は一緒に出かけ、それ以外でも庭でお茶を飲んだり、歌ったり、散歩をしたりして季節を感じていただいている。また、本人や家族の希望があれば同伴して外出できるように支援をしたいと思っています。	花見に行きたいなどの希望があれば、車椅子で前庭に出て気分転換し楽しんで頂いています。家族と一緒に、家に帰宅している利用者もいます。	自由な外出支援の体制は以前からあり、対応できているので利用者も遠慮なく申し出ています。今後も外出支援で、利用者が楽しめるよう対応を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人だけお金を所持しているが最近を使うことを忘れている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度化し手紙のやり取りや電話をする方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で体温調整ができないので、各部屋に湿温計を設置し快適に過ごせるようにしている。また、季節の花を玄関、居間、居室等に活ける等して季節感を感じられるように工夫している。	季節の花を多く飾るようにして、部屋を明るく楽しい雰囲気にするよう心がけています。職員は割烹着姿で、自宅にいるような親しみやすい共有空間を心がけています。	共有空間や廊下など、利用者が安全に移動できるよう、手すりや転倒時のケガ防止のためにクッションが敷き詰められています。保温や音の吸音を保つてよい素材です。汚れ付着や掃除のしにくさが懸念されるとのことで、工夫を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で話をする方はいないので居間の席は利用者の相性、性格、健康状態を考慮して決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の時に家族写真や使い慣れた家具等を持ち込み、居心地良く過ごせるように支援している。また、行事がある毎に写真を撮り自室の壁に貼っている。	家具の持ち込みは自由ですが、食料品等は確認をしています。冷蔵庫に入れる食品・お餅等、嚙下に危険なものは職員が管理しています。	古民家の居心地の良い空間に、懐かしい割烹着姿の職員が働いています。利用者に関する気づきを、申し送りだけでなく常に情報を共有されるよう期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、手すりの設置、背丈に合わせたテーブルや椅子を用意し安全な生活が送れるように環境づくりをしている。		